教師への社会的勢力付与が生徒に及ぼす効果

○鎌田雅史・淵上克義
(岡山大学)

キーワード: 社会的勢力, スクールエンゲージメント, 集団効力感

The effect of Teachers' Social Power Perceived by Students on Their School Live
Masafumi KAMADA, Katsuyoshi FUCHIGAMI
(Okayama University)
Key words: Social power, School engagement, collective efficacy

目的

教師の影響力を規定する重要な要因の一つである社会的勢力に関しては、これまで多くの研究が行われており (McCroskey & Richmond, 1984; 田崎, 1990;), 高い社会的勢力を有する教師は生徒の学習意欲, スクールモラルなどに関して, 様々な望ましい影響を及ぼすことが可能であることが指摘されてきた。

しかし、ほとんどの調査研究は単一の調査に基づくものであり、社会的勢力の高い教師が生徒の学級適応に望ましい影響を及ぼすのか、学校に適応している生徒が教師の社会的勢力を高く認知するのかといった点に関しては議論の余地が残されてきた。また、単一方向のみの関係ではなく、相互に規定しあう循環的關係である可能性も否めない。

そこで、本研究では、教師と出会って間もない中学一年生の生徒による教師への社会的勢力付与を、一学期中の、5月下旬、6月半ば、7月の3回の調査によって時系列的に検討することで、社会的勢力付与と児童生徒の学級適応が、相互にどの程度予測しあうかどうかについて検討した。

方 法

調査時期 2009年5月後半から、6月下旬、7月中旬

調査対象者 岡山県下の中学生 140 名

調査項目

担任教師への社会的勢力付与

本研究では、田崎(1990)、Raven(1992)を参考に、担任教師への社会的勢力付与に関する測定項目を独自に作成した。測定においては田崎の方法に習い、学校生活において勉強や生活に関し、学級担任から指示を受ける理由として、各項目内用がどの程度当てはまるかに関して5件法(1全くそうではないー5とてもそうである)で回答を求めた。回収したデータを基に、因子分析を行った結果、因子負荷量の値と、項目の解釈妥当性から3因子による解釈が妥当であると判断した。第一因子は、教師の準拠勢力や専門勢力に関する項目が負荷していたため準拠勢力と命名した。第二因子は、「生徒が先生の言うことを聞くのは当たり前だから」といった、教師の正当性に関する項目が負荷していたことから正当勢力と命名した。第三因子については、成績を下げられたくないのような、強制力に基づく因子が強く負荷していたことから罰勢力とした。

担任教師の役割行動

予備調査において、中学校の担任教師には、どのような行動が期待されているのかについて、岡山県在住の中学生(93名)、大学生(103名)、現役教師(26名)を対象に自由記述式の質問紙調査を実施した。本調査においては、予備調査において得られた項目について、どの程度担任教師に当てはまるのかについて、5件法(1あまりあてはまらないー5非常にあてはまる)で回答を求めた。尺度には、①生徒に対して優しく接するなどの配慮行動②生徒が納得できるような方法で叱る、

クラスのルールを作るなどの学級づくりに関する教師行動③
分かりやすい授業の実施など学習指導に関する項目が含まれ
ている。

学級集団効力感

学級集団の協働や団結に関する潜在力を測定するための学級集団効力感測定項目に関し、淵上・今井(2006)の学級集団効力感測定項目を一部修正して使用した。調査対象者である生徒に対しては、生徒の所属する学級に関して、項目内容がどの程度当てはまるかについて5件法(1 全くそうではないー5 とてもそうである)を用いて回答を求めた。

エンゲージメント

生徒自身が、どの程度学校生活に対して主体的に参与しているのかどうかを測定するために、Fredricks, Blumenfeld, Friedel & Paris(2005)のスクールエンゲージメント測定項目を参考に、エンゲージメント作成項目を作成した。第一因子に関しては、学校活動が楽しい、など学校活動への情緒的な参与に関する項目が主であったため、情緒的エンゲージメントと命名した。また、第二因子に関しては、学校での学習活動に対する認知的な参与が負荷していたため認知的エンゲージメントと名づけた。

結 果と考 察

Table 1 に、3 回の測定における単相関の値を示す。一学期初期の教師の準拠勢力は、将来的な児童生徒の教師認知、学校への積極的なエンゲージメントを予測した。また、教師の正当勢力は、将来的な学級集団効力感を予測した。

Table2 における重回帰分析についても、一学期初期の教師への勢力付与が児童生徒の学校適応に及ぼす同様の効果が認められた。更には、児童・生徒の教師認知やエンゲージメントに関しては特に、一学期初期のみならず日常の教師との一貫した関わりの重要性が示された。

Table 1 記述統計

	教師 I	教師 II	教師 III	情動 I	情動 II	情動 III	認知 I	認知 II	認知 III	協働 I	協働 II	協働 III	學習 I	學習 II	學習 III
準拠 I	.75 ***	.59 ***	.55 ***	.35 ***	.33 ***	.48 ***	.33 ***	.23 ***	.31 ***	.26 ***	.26 ***	.30 ***	.01	.11	.02
準拠 II	.48 ***	.71 ***	.55 ***	.34 ***	.31 ***	.42 ***	.32 ***	.30 ***	.26 ***	.24 ***	.31 ***	.15	.04	.15	-.07
準拠 III	.61 ***	.66 ***	.77 ***	.28 ***	.28 ***	.36 ***	.31 ***	.29 ***	.45 ***	-.01	.16	.20	-.12	.00	.06
正当 I	.45 ***	.20 ***	.15	.03	.07	.15	.26 ***	.27 ***	.30 ***	.23 ***	.25 ***	.45 ***	.22	.36 ***	.49 ***
正当 II	.24 ***	.35 ***	.20	.10	.21 ***	.16	.29 ***	.27 ***	.30 ***	.24 ***	-.11	.38 ***	.23	-.41 ***	.39 ***
正当 III	.25 ***	.23 ***	.39 ***	-.01	.09	.11	.11	.21	.39 ***	.08	.16	.34	.15	.26 ***	.33 ***
罰 I	.12	-.01	.03	-.09	-.10	-.13	.19 ***	.05	.01	.20 ***	.10	.29 ***	.16	.08	.25 ***
罰 II	.08	.18	.03	.05	.10	.00	.22 ***	.14	.16	.18	.28 ***	.28 ***	.20	.33 ***	.31 ***
罰 III	.03	-.03	.21 ***	-.13	-.03	.00	-.02	.07	.14	.09	.09	.40 ***	.13	.12	.28 ***
平均値	3.66	3.44	3.49	3.88	3.74	3.78	3.48	3.44	3.30	3.43	3.31	3.28	3.00	3.05	2.98
標準偏差	(.82)	(.83)	(.86)	(1.04)	(1.12)	(1.01)	(.83)	(.81)	(.76)	(.84)	(.89)	(.88)	(.98)	(.99)	(.92)
N	132	115	98	132	111	98	132	111	98	132	111	98	132	111	98

Table 2 階層的重回帰分析の結果

[illegible]

同一の重回帰モデルで、 R^2 が異なるのは、階層的重回帰の過程で2回目測定値のデータ欠損から生じる自由度の減少による。 $N=96 \Rightarrow 74$